

就活DXで観光人財育成を

COLUMN
県内
大学 発

経世済民

(661)

就職戦線がほぼ正常化し、ホスピタリティ業界を目指す本学の学生たちがまた一歩実のある結果を残した。夢と希望を胸に入学し専門科目を学びながら進路を変更することなく入学当初

だ。少なくない事務職がAIで代用される日が来ても、人が提供するところで感動を生み出すホスピタリティの仕事において、女性が活躍しない職場は想像できない。

よりさまざまな経験をして成長し、ホテリア、ブライダル・コーディネートとなるべく来春には旅立つ。この業界は人工知能(AI)時代にあつても女子学生にとっては数少ない「手に職」となる仕事で、今後数十年にわたり女性の活躍が期待される数少ない分野だ。さらに日系企業の多くが外資系ブランドの日本進出に備え洗練された働き方を導入していることも魅力的

AIといえは最近の研究対象は生体分析だ。特別なデバイスなしにウェアラメラを通して心拍数・呼吸数・瞳孔の開閉を読み取って感情を分析しデータ化するもので、集中できている状態を「没頭・覚醒」で表し、気持ちが入っていない状態を「ストレス・散漫」として可視化する。すでに店舗・教育・観光・福祉などのビジネス7分野に導入され、分析されたデータ内に

川口短大 富吉 光則

ビジネス実務学科 准教授



個人情報は一切保持しないという。三省合意によるインターンシップ新定義の運用が始まったため選考の早期化がさらに進んだ現在の就活指導においては、これまでの点の指導を線に、線をつないで面としていたが、それをさらに立体化してブランドにまで高める中で、この技術を取り入れ従来の指導と併用することで学生の対応能力を高度化できると確信し、担当している学生の就活指導に取り入れてみた。

個別の面接練習に導入すると、データが導き出した分析結果は過去面接官を経験した私の分析をも上回る新たな視点から

個々の改善点を鮮明にした。体験した学生も、私の指摘とは別の観点から説得力のある気づきを与えてくれるAIのデータを併用することで、客観的に自身の優劣箇所を把握でき、今後は自主的に繰り返し使いたいという。このアプローチは「グループディスカッション」の指導にも応用できることから実証的に導入予定である。生体分析によって就活に変革を促すデジタルトランスフォーメーション(DX)ともいえるこの指導方法は、これから就活に臨む学生の自己肯定感と自信を増す原動力になるだろう。きめ細かい個別指導の上に付加されるこのDXの力

で、自信というブランドをまとった学生がホスピタリティ業界に就きたいとする夢の実現を、心から応援していきたい。

とみよし・みつりのり 神奈川県立経済学部貿易学科卒業。旅行社・エアライン関連勤務を経て非常勤講師を歴任後20年より現職。航空・宿泊・観光・ホスピタリティ等の観光ビジネス科目全般を担当。観光庁「インバウンドの地方誘客促進」に世界水準のDMO形成促進事業」の専門家にも従事。専門はサステナブル・ツーリズム。